

National Clinical Database への症例登録についてのお知らせ

このたび日本外科学会を基盤とする外科系の学会が共同して、日本全国における外科手術症例のデータベース化事業が行われることになりました。独立した機関として National Clinical Database(以下 NCD) が設立され、今後は日本における殆どの外科手術症例に関する情報が本機関に登録されることとなります。大阪大学医学部附属病院も本登録事業に参加することになりましたので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1) 対象となる方

平成 23 年 1 月 1 日以降、大阪大学医学部附属病院外科系各科（心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺内分泌外科、小児外科）で手術を受けるすべての患者さんが対象となります。

2) 研究機関名

NCD と全国の医療施設が協力して本事業を実施します。

3) 目的

日本全国で実施される外科手術症例に関する情報を NCD に登録し集計・分析することにより、医療の質の向上に役立てることを目的としています。

4) 方法

NCD より承認を受けた医師およびデータマネージャーが NCD のウェブサイトを通じて外科手術症例（病名や術式等の臨床情報）を登録します。

5) 意義

日本全国の医療施設から集められた情報を解析することにより、地域ごとの診療の特徴や医療水準の評価が可能となります。また手術の成績や合併症の危険性などについても明らかにでき、より安全で質の高い医療を提供するための方法の開発や政策などに反映することができます。また、登録された症例をもとに各専門医の資格認定が行われますので、高度な知識と技術を有する専門医育成に役立ちます。

6) 個人情報の扱い

NCD に登録する際には、患者さんの氏名やカルテ番号等の個人を識別できる情報は登録しませんので個人情報外部に漏洩することはありません。

7) 参加を拒否する権利

NCD への登録を希望されない方は主治医にお申し出ください。